夏の風物詩「100km徒歩の旅」

小学高学年、4泊5日に挑戦

向東町、NPO法人おのみ寺子屋（柿本和彦理事長）は夏の尾道の恒例行事になった「おのみち100km徒歩の旅」を実施する。

第24回目を迎えた今年のテーマは「尾道のまち、山、海。100kmを歩きぬく5日間」。

参加者を募集、対象は小学4年生から6年生までの男子40人と女子40人の計80人。

参加費は食事、記念Tシャツ、記録DVD、三度笠、保険など含めて2万6000円。募集は5月末まで。申し込み、問い合わせは同寺子屋（℡0848・45・3131）まで。

100km徒歩の旅は8月9日から13日までの4泊5日の旅程。

初日の9日は午前8時半、千光寺公園グラウンドを出発、旧市街地を歩き、瑠璃山展望台に登り、その日は三成小学校に泊まる。

2日目の10日は木ノ庄町から北部に入り、尾道柿園、御調町の中心地を通り、宿泊は御調西小学校。

3日目の11日は御調から銀の道を通り、急な坂道のこざかなくんスポーツパークびんごから、その日は日比崎小に泊まる。銭湯・大栄湯で旅のアカを落とす。

4日目の12日は駅前渡船に乗り向島に渡り、南岸の臨海公園から因島の大浜公民館で昼食。向島に戻り、高見小学校に宿泊する。

5日目の13日は高見山山頂に登り、そこから麓の洋らんセンター、向島八幡神社など経てゴールの市民センターむかいしまに到着し、解散する。

100km徒歩の旅は尾道の夏の風物詩になっている。

［半田元成］

一昨年の100km徒歩の旅